

平成22年(2010年)2月25日

(木曜日)

エンヴィテック

放射線物質への対応

下

村田 幸三社長に聞く

海外的に放射能探知機の導入が進んだ。その後もルギーの04年に中国でセシウム137の溶解の可能性が日本の新聞で報じられたり、07年には強い溶解で、コバルト60の反応が重大な事故が起きた。コバルト60の反応が重大な事故が起きた。コバルト60の反応が重大な事故が起きた。

「1999年輸出された大きな問題と2年半は、台湾でコバルト60を放射する鉄筋の海外誌では溶解事故を使ったビルに住んでの例が多数紹介されている。すべてコバルト

2年半は、台湾でコバルト60を放射する鉄筋の海外誌では溶解事故を使ったビルに住んでの例が多数紹介されている。すべてコバルト

件が発覚した。スクラップに混入した放射性同位体がリサイクル製品化され問題となった最初のケースだ。これ



海外の溶解事故、教訓に

放射線の「強さ」計測必要

るのでは。

「そのはずだが、文部科学省のホームページにはトラブル関連情報として放射性同位体の紛失報告が頻繁に掲載されている。その中にコバルト60やセシウム137を盗難、紛失した事例が記載されている。このように紛失

た医療用機器がスクラップに混入されれば海外のような重大事故も十だ」

「なぜ一般的な探知機では放射性同位体を特定できないのか。放射性同位体の特定ができていない探知機が普及している理由は、

「放射能探知機の導入の歴史的経緯が背景にある。国内で探知機が導入されたのは当

「世界での溶解事故を見る、厳重に密閉された放射性同位体が格納されたものが、電炉メーカーに持ち込まれたために発生している。厳重に密閉された容器から漏れ出す放射線は少ないため『放射線の数』だけを測って

「世界での溶解事故を見る、厳重に密閉された放射性同位体が格納されたものが、電炉メーカーに持ち込まれたために発生している。厳重に密閉された容器から漏れ出す放射線は少ないため『放射線の数』だけを測って

解事故は起きていないが、今後日本で溶解事故は起こらないとは決断して言い切れない」

「ただ、日本でセシウム137など最近の病院の廃棄が増えているため、セシウム137などを使用し特定するには放射線の射線の強さを調べれば

の電位を持つ放射線の数が自然界より少し多い場合にはアラームで知らせる機能を追加することが必要だ。また、通常の放射能探知機はスクラップ入荷口のトラックスケールに併設した門型(ゲートモニタ)が一般的。しかし、放射性同位体